丹波小
学校便り

夢　の　泉

発行日
平成29年11月10日
第13号
文責：小宮山

全力を出しきった　北都留地区陸上記録会！

１０月１８日（水）晴天の元，北都留地区陸上記録会が行われ，５・６年生が参加しました。７つの小学校（丹波小，上野原西小，島田小，上野原小，西原小，秋山小，小菅小）により，６つの陸上競技（100M，60Mハードル，ボール投げ，走り高とび，走り幅とび，400Mリレー）で記録を競いました。学校では２週間におよぶ練習に取り組みました。雨の日が多く調整もたいへんでしたが，本番では，それぞれが，これまで培った成果を発揮することができました。特に，守岡彩音さんがソフトボール投げで第２位，岡部結菜さんが走り高とびで５位，女子リレー（５・６年女子）が５位と，入賞しています。参加した５・６年生５名がとても輝いた一日となりました。

福祉講話

今年度は，ＮＰＯ法人「小さな村総合研究所」の小村幸司さんを講師としてお招きし，福祉講話を行いました。「人のために何ができるか」をテーマに，①丹波山村のために尽くした中川金治さん（自作アニメ），②自信体験の福島原発に関わる被災地のボランティアについて講話をいただきました。皆真剣に話を聴き，「人のために」ということをそれぞれが考えるきっかけとなりました。

丹菅音楽祭

運動会の練習と重ねて練習をしていたのが，丹菅音楽祭の歌や合奏。

１０月２７日（金）には，丹菅小中の４校が集まり，「丹菅音楽祭」が行われました。それぞれの学校が学校の持ち味を発揮し，歌や合奏を披露しました。「元気に」「楽しく」「音楽を楽しむ」という点では，丹波小学校が秀逸でした。丹波小の子ども達，長期間の練習をよくがんばったと思います。プロによるトランペット演奏を含め，多くの音楽表現にふれるとてもよい機会になりました。

窓外の景色
～校長のつぶやき～

ことばのちから

校長：杉田

秋も深まり，山の色付きは里の実りとともに，心に豊かさを与えます。今，校内では「読書週間」の取組として「朝の読み聞かせ」が行われています。保護者のお母さん方と先生たちが日替わりで本を読み聞かせます。朝の日ざしの中，とてもとても温かい時間が流れています。

「言葉」の大切さはわかっていますが，なぜ大切なのかは，私たち大人でも意識して考えないと理解せずに使ってしまいがちです。「ふわふわ言葉」と「ちくちく（ぎすぎす）言葉」と言われることがあります。「ふわふわ言葉」は，言われるとうれしくなる言葉，安心する言葉，笑顔になる言葉です。

子供たちの会話を聞いていると，「ありがとう，かわいい，すてき，かっこよかった，がんばったね，最高!!，よかったね」など，ほっとして心が温かくなる言葉が交わされます。逆に，「ちくちく言葉」は言われると心が悲しくなり，不安になったりと耳を覆いたくなる言葉。私たち人間は，多くの場合，それらを無意識のうちにほんの軽い気持ちで使ってしまいます。本校の児童会活動でも，笑顔になる言葉遣いを４月から全校で取り組んでいますが，子どもは私たち大人の「鏡」です。教師が，「おはよう」と言うと「おはよう」と返します。「もう，おわった？」と言うと「おわった」と言います。だから，子供たちには，「おはようございます」とか「もう，おわりましたか」と声をかけることが大切なのです。そうしただけで，「おはようございます」「はい，おわりました」と返ってきます。

私たちが日常使っている言葉や言い回しは，模倣と繰り返し（オウム返し？）によって築かれてきたものです。すべての生活の中で，耳や目から入ってきた「言葉」すなわち「言語環境」によって，言葉遣い（心遣いでもあります）は大きく左右されます。まさに，「ことば」＝「ことだま」でしょう。子供たちにとっては学校・家庭・地域社会におけるさまざま言葉や文字が言語環境と言えます。であれば，私たち大人も襟を正し，あらゆる場面で思いやりのある言葉を使っていくようにしたいものです。

「言葉」は，心に元気を与えるためのクスリ。作用もあれば副作用もあります。薬の副作用を心配する人は多いが，言葉の副作用を気にする人は少ないと思います。薬の副作用とは比較にならないくらい言葉は毒性を発揮するときがあります。私たち大人の「思い」を感情的ではなく素直に子供たちに伝えていけるようにしたいです。